

～予防接種の対象年齢と受ける時期のめやす～

## 定期予防接種

国や自治体が「受けるように努めなければならない」と強くすすめている予防接種です。規定の年齢での接種であれば費用は原則無料です。  
(指定医療機関外で接種する場合は、一部自己負担になる場合もあります。)

□ …無料で接種を受けられる年齢

■ …接種可能年齢のうち、受けるのが勧められている期間

↓ …好ましい接種時期

ワクチン	種類	生後90か月												標準的な接種年齢(月齢)とスケジュール										
		3か	6か	9か	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳		10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳			
B型肝炎	不活化	①	②	③																			生後2～9か月までの間に、27日以上の間隔で2回接種し、初回接種から139日以上間をおいて3回目を接種します。	
ロタ	ロタテック(5価)	①	②	③																			生後6週から32週までの間に27日以上の間隔で3回接種します。初回接種は生後6週から14週6日までに受けてください。	
	ロタリックス(1価)	①	②																				生後6週から24週までの間に27日以上の間隔で2回接種します。初回接種は生後6週から14週6日までに受けてください。	
17価Hib 菌b型(Hib)	不活化	①	②	③	④																		標準的な接種開始年齢は、生後2～7か月未満です。接種開始時期により接種回数異なります。詳しくは次ページの表をご覧ください。	
小児用肺炎球菌	不活化	①	②	③	④																		標準的な接種開始年齢は、生後2～7か月未満です。接種開始時期により接種回数異なります。詳しくは次ページの表をご覧ください。	
四種混合(百日咳、ジフテリア、破傷風、不活化ポリオ)	不活化	①	②	③	④																		初回接種は生後2か月から、20日から56日の間隔をおいて3回を行い、追加接種は初回接種終了後12か月～18か月の間隔をおいて1回行います。	
BCG	不活化	①																					生後5～8か月に達するまでの間に1回接種します。	
麻しん風しん混合(MR)	不活化				①																		1期 1歳の間に1回接種します。 2期 5～7歳未満の子で小学校就学前(保育園・幼稚園等の年長児期)の1年間(4/1～3/31)に1回接種します。	
水痘(水ぼうそう)	不活化				①	②																	生後12～15か月の間に1回接種した後、1回目の接種後6～12か月の間隔をおいて2回目を接種します。	
日本脳炎(※注)	不活化				1期	①	②	③														④	1期 3～4歳の間に6～28日の間隔をあけて初回接種(2回)を行い、初回接種終了後、約1年後に追加接種(1回)を行います。 2期 9～10歳未満の間に1回接種します。	
二種混合(ジフテリア・破傷風)	不活化																						小学・義務教育学校6年生に相当する子	
HPV(子宮頸がん予防)	2価サーバリックス	不活化																					中学・義務教育学校1年生相当の女子 ▼ワクチンにより接種間隔が異なりますが、いずれも1年以内に接種を終えることが望ましいとされています。 【2価：サーバリックス】 1か月の間隔をおいて2回接種したのち、1回目から6か月の間隔をおいて1回接種 【4価：ガーダシル・9価：シルガード】 2か月の間隔をおいて2回接種したのち、1回目から6か月の間隔をおいて1回接種	
	4価ガーダシル	不活化																						
	9価シルガード	不活化																						

## 任意予防接種




個人で接種するかを判断し、費用も自己負担となる予防接種です。健康保険は通常適用されません。

ワクチン	種類	接種スケジュール
おたふくかぜ	注射生ワクチン	1歳以上で接種することができます。日本小児科学会では2回の接種が推奨されています。
季節性インフルエンザ	不活化	生後6か月以上で接種することができます。13歳未満は2～4週間間隔をあげ、2回接種します。



※季節性インフルエンザの助成については、担当課にお問い合わせください。

## ワクチンの種類

ワクチンは、感染症の原因となるウイルスや細菌をもとに作られています。成分の違いから、大きく「生」と「不活化」に分けられます。

生ワクチン	不活化ワクチン
<p>毒性を弱めた生きた病原体でできたワクチンです。接種することで病原体に軽く感染したような状態になりますが、接種後の免疫は強くなります。生ワクチンには、注射生ワクチンと経口生ワクチンがあります。</p> <p>注射生ワクチン  経口生ワクチン </p>	<p>死んだ病原体や病原体の一部を集めたもの(病原体ではなく、免疫をつけるのに必要な成分のみ)でできています。体内で病原体が増えないため、免疫はつきにくく、複数回の接種が必要です。</p> <p>不活化 </p>

### 異なるワクチンの接種間隔について (R2.10～規定が変更されました)

接種	次の接種
<p>注射生ワクチン (BCG、MR、水痘、おたふくかぜ等)</p>	<p>★ 『注射生ワクチン』 は27日は接種不可  ★ 注射生ワクチン</p> <p>★ 『経口生ワクチン・不活化ワクチン』 は接種可 (接種間隔に制限はありません)</p>
<p>経口生ワクチン</p>	<p>★ 異なるワクチンは接種可 (接種間隔に制限はありません)</p>
<p>不活化ワクチン</p>	<p>★ 異なるワクチンは接種可 (接種間隔に制限はありません)</p>
<p>新型コロナワクチン</p>	<p>★ 13日は接種不可  ★ 注射(経口)生ワクチン、不活化ワクチン</p>

### 同じ種類のワクチンの接種間隔について

同じ種類のワクチン接種を複数回受ける場合は、ワクチンごとに決められた間隔を守る必要があります。上記記載の「標準的な接種年齢(月齢)とスケジュール」を参考にしてください。



### 新型コロナワクチンについて

接種を受けることは強制ではありません。お子様と保護者の方でよく相談し、メリットやデメリットについて理解した上で、接種をご検討ください。

- ・インフルエンザを除く他のワクチンを受ける場合は、前後13日以上の間隔を空けてください。
- ・ワクチンを受けた後に現れる症状は、注射した部位の痛みが一番多く、その他発熱、倦怠感、頭痛、寒気等現れる場合もありますが、ほとんどが軽症または中程度です。